

聖霊降臨後第18主日(特定22) マタイ21章33-43節

【直訳】

33 「他の たとえを 聞きなさい。
ある(人が) いた 一家の主人が
ところの 造った **ぶどう園**を そして 囲いを そのの 周りに置いた
そして 掘った それの中に **ぶどう**絞り桶を そして 建てた 塔を
そして **小作に出した** それを **農夫**たちに そして 旅に出た。

a

34 だがとき 近づいた 実りの時期が、
彼は遣わした 彼の僕たちを 農夫たちのもとに 取るために 彼の実りを。
35 そして **取って** 農夫たちは 彼の僕たちを
確かに一人を 殴った、だが一人を 殺した、だが一人を 石打ちにした。
36 再び 彼は遣わした 他の 僕たちを 最初の者たちより多くの者たちを、
そして 彼らはおこなった 彼らに 同じように。

b

37 だが最後に 彼は遣わした 彼らのもとへ 彼の息子を 言いつつ、
『彼らは尊敬するだろう 私の息子を』。
38 だが農夫たちは 見て 息子を 言った 彼ら自身の中で、
『これは ある 相続人で。
39 さあ 我々は殺そう 彼を そして 我々は持とう 彼の相続分を』
そして **取って** 彼を 彼らは投げ出した **ぶどう園**の外に
そして 彼らは殺した。

b'

40 そこでとき 来る **ぶどう園**の主人が、
何を 彼はおこなうだろうか その農夫たちに」。
41 彼らは言う 彼に、
「悪い者たちを 悪く 彼は滅ぼすだろう 彼らを
そして **ぶどう園**を 彼は**小作に出す**だろう 他の **農夫**たちに、
その者たちは 返すだろう 彼に 実りを それらの時期の中で」。

a'

42 言う 彼らに イエスは、
「まだあなたがたは読んだことがないのか 聖書の中で、
『石 ところの 退けた 建てる者たちが
これが なった 隅の頭に。
主から なった それは
そして それはある 驚くべきことで 我々の目の中で』
43 それゆえ 私は言う あなたがたに 次のことを
取り上げられるだろう あなたがたから 神の国は
そして それは与えられるだろう 民族に
おこなう者に その実りを」。

【新共同訳】

33 「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。34 さて、収穫の時間が近づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫たちのところへ送った。35 だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。36 また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。37 そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。38 農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものしよう。』39 そして、息子をつままえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。40 さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。41 彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」42 イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないか。」

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』

これは、主がなさったことで、

わたしたちの目には不思議に見える。』

43 だから、言っておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。

①他の農夫たちに小作に出す(33—41節)

②第一段落の構造

この段落は次のような対応関係から、さらに四つの部分に分けることができる。

33節(a)と40—41節(a')

「ぶどう園」・「小作に出す」・「農夫」

34—36節(b)と37—39節(b')

「遣わす」・「取って」・「殺す」

主人と「ぶどう園」の関係語るaとa'が、主人の遣わした僕や息子と農夫たちとの関係を述べるbとb'を囲む構造になっている。

⑦aでは、ぶどう園に対する主人の配慮を強調するために、「造った…そして…そして…そして…という畳み掛ける形で描いた後、主人が「小作に出して」、旅に出たことが述べられる。

⑧bでは、主人が収穫を「取るために」遣わした僕たちに対する農夫たちの仕打ちが描かれる。農夫たちは僕たちを「取って…殺した」が、彼らの行動は「殴った…殺した…石打ちにした」というように、しだいに悪質になってゆく。さらに35節では、「再び」主人は「より多く」の

僕を遣わすが、農夫たちは行動を改めようとはしない。

⑦ b'では、息子を「最後に」派遣したが、農夫たちは彼を「取って…殺した」と述べることによって、主人の期待が無惨にも裏切られたことが描き出される。bとb'は「遣わした…取って…殺した」で対応しているが、単純な繰り返しではない。b'では派遣された者が「息子」に格上げされており、農夫たちの反抗も「相統分を自分たちのものにしよう」という意図的なものにエスカレートしている。こうして農夫たちの常軌を逸した反抗が強調される。

⑧ a'では、イエスの質問に対して、祭司長たちは「ぶどう園を他の農夫たちに小作に出すだろう」と答える。この「他の農夫たち」は、「実りをそれらの時期の中で返すだろう」と期待されているが、ここでの「実り(収穫)」は「救いの時」を指しているから、神からの救いに感謝する人のことである。

⑨ 「ある一家の主人」

並行箇所(マコ二1、ルカ二〇9)では「ある人」であるが、マタイは「ある一家の主人」に変えている。変えることによって、神との関連性を強めているのかもしれない。

⑩ 「ぶどう園」

ぶどう園は、イスラエルを示すシンボル。「垣を巡らし、搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て」はイザヤ5章2節を踏まえた描写であるが、ルカ20章9節にはこの描写がない。なお40節の間もイザヤ5章5節に遡る。

⑪ 「実りの時期が近づいたとき」

⑫ 「実り」という語は、34節二行目、41節四行目、43節四行目にも現れる。この語は、34・41節では「収穫」を意味するが、43節の「その実りをおこなう者」は「神の国にふさわしい実を結ぶ者」の意味である。

⑬ 並行箇所のマルコ12章2節を新共同訳は「収穫の時になったので」と訳しているが、原文では「時期に」とあるだけで(ルカ二〇10も同様)、「収穫の」にあたる言葉はない。また、41節と並行するマルコ12章9節とルカ20章16節では、「ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがない」と述べるだけで、「季節ごとに収穫(実り)を納める」が欠けている。さらに、「実り」という語を用いる43節全体もマルコやルカにはない。このように、マタイが「実り」を繰り返すのは、「実りの時」、つまりエルサレムでの十字架と復活という救いの時が近づいたことを示すためである。21章1節に「一行がエルサレムに近づいて」とあるが、この句との関連を考えると、「実り」は救いの出来事を表すと言えるからである。

⑭ 「彼の僕たちを取って」

「取って」と直訳した動詞は、34節では「(収穫を)受け取る」と訳されている。主人は「自分の収穫を取る」ことを期待して僕を遣わすが、農夫たちは主人を裏切り、僕を「取って」しまう。同じ動詞を使うことによって、農夫たちの裏切り、反抗にスポットを当てようとしている。39節の「捕まえ(取って)」も同じ動詞。

⑮ 「石打ちにした」

石打ちは、背教者や偽預言者に対する処刑方法である(出一九13、レビ二〇2・27、二四14・16・23、民一五35以下、申一三10以下など)。主人の僕たちが受けた仕打ちは、旧約聖書の預言者が甘受した仕打ちである(ネへ九26、エレ七25以下、二〇2、二六23、代下二四21など)。

㉔ 「彼ら自身の中で言った」

「彼ら自身の中で言った」と似た表現は、21章25節では祭司長や長老たちに用いられている。21章25節で「論じ合った」と新共同訳が訳した表現は、「彼ら自身の中で論じた」と直訳できる。このようなつながりから考えると、たとえに登場する農夫はイスラエルの民というよりは、その指導者たちを指していると思われる。

㉕ 「彼の相続分を我々は持とう」

当時の決まりによると、相続人のいない財産は、最初にそれを占有した者の財産となった。農夫たちは不在地主の息子が来たのを見て、地主が死んだと思いい、跡取りさえ殺せば、財産は自分たちのものになると考えたのかもしれない。

① 「ぶどう園の外に投げ出し、そして殺した」

並行箇所マルコ12章8節では「殺し、ぶどう園の外に放り出してしまった」であるが、マタイでは外に放り出してから、殺している。これは、イスラエルの指導者がイエスをエルサレムの「外に」連れ出して殺したこととの関連性を強めるためである(マタ二七32、マコ一五20以下、ヨハ一九16以下、ヘブ二三12-13)。

② 神の国の実り(42-43節)

㉖ 42節の旧約引用は詩編118編22-23節。この詩編は、死んで復活したイエスを予告するものとして、使徒言行録4章11節などに引用される。しかし、「ぶどう園と農夫」のたとえ本体では「息子」の復活についてはまったく言及されていないから、42節はイエスの復活を体験した初代教会の解釈である。

㉗ 42節はマルコヤルカの並行箇所にもあるが、43節はマタイだけが伝えている。43節は、マタイがマタイの関係者が、異邦人宣教の正しさを教えるために加えた解釈である。

㉘ 「石(リソス)」

㉙ 詩編118編22-23節。マタイ21章42節は、イエスのメシアとしてのあり方を説明するために、「建てる者たちが退けた石」という句を引用する(42節並行、使四11、1ペト二7)。家造りから見捨てられ、隅の親石となった「石」のように、イエスは人から見捨てられ、殺されるが、神によって復活させられるメシアである。

㉚ イザヤ8章14節。イエスを信じない人々にとって、イエスは「つまずきの石」である(ロマ九32・33、1ペト二8)。

㉛ イザヤ28章16節。イエスはシオンに置かれた「選ばれた尊いかなめ石」である(1ペト二6)。

㉜ ペトロの手紙一2章4節は、メシアとしてのイエスを「生きた石」と呼ぶが、こうした表現の背景には旧約聖書がある。また、ペトロの手紙一は、キリストと同じくキリスト信者を「生きた石」と呼ぶ。「あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい」(1ペト二5)。

㉝ 「隅の頭」

㉞ 「隅」と訳されているコーナーは、「あるものを外側から見た場合の(角(かど))、あるいは」(あるものを内側から見た場合の(隅))を表し、新約聖書では9回使われている。

㉟ 偽善者は会堂や大通りの「角」のような目立つ場所で祈りたがる(マタ六5)。しかし、パウ

ロがメシアの死と復活は「どこかの片隅」で起こったのではないと述べるときには、目立たない場所としての「隅っこ」である(使二六26)。また大地の四つの「隅」とは、地上の四つの方向それぞれの「隅」のことを指す(黙七1、二〇8)。

⑦その他の5例ではすべて、詩編118編22節を引用する。「隅の親石」と訳された句を直訳すれば、「隅の頭」となる。ここでの「頭」が「頂上」を意味すれば、建築の仕上げとして玄関正面の上部に埋め込まれる「要石」のことである。しかし、水平の「端」の意味であれば、建築の初めに建物の一番外側の角に置く「礎石、土台」を意味する。いずれにせよ、最も大事な石を表している。

⑧家造りに捨てられた石が「隅の親石」となった。この石を、新約聖書はイエスのメシアとしてのあり方に結びつける。イエスは人からは役に立たない石として捨て去られたが、神によって「隅の親石」にされた。人から捨てられたイエスは神によって復活させられたメシアである(使四11)。

③たとえのポイント

①一般的に言って、イエスが語ったたとえは「寓喩(たとえに登場する一つ一つの要素がたとえられている事柄とそれぞれ関係するようなたとえ)」ではなく、「狭義のたとえ(たとえとたとえられている事柄とが、たった一つのポイントで関連するようなたとえ)」であった。しかし、イエスのたとえは教会で語り継がれるうちに、寓喩的に読まれるようになったと考えられる。33—40節を寓喩として読むと、

「ぶどう園」	イスラエルの民
「家の主人」	神
「農夫たち」	イスラエルの宗教的指導者
「僕たち」	神が遣わした預言者
「息子」	メシアであるイエス

と理解することになる。

②しかし、イエスがこのたとえを語ったときには、「ぶどう園」も「家の主人」も「僕たち」も「息子」もたとえを一つの物語にするための要素にすぎず、たとえられている事柄とは直接に関係していなかったと考えられる。イエスがこのたとえを述べたのは、41節の「ほかの農夫たちに貸すにちがいない」という答えを導き出すためであり、そうすることによって、徴税人や娼婦を優先する宣教姿勢を弁明したのだと思われる(二一—32)。

③しかし、教会による寓喩的な解釈にも二つの段階があると思われる。というのは、すでに触れた寓喩的な解釈と43節の解釈ではずれがあるからである。43節での「ぶどう園」はイスラエルではなく、「神の国」をたとえており、異邦人宣教を正当化するたとえとされている。そうであれば、このたとえは、罪人をも排除しないイエスの宣教姿勢を弁明するたとえの段階から出発して、「息子」をイエスと同定する寓喩的解釈を経て、異邦人宣教を正当化するたとえとされる最後の段階までを含んでいることになる。

④教会によるたとえの解釈

①「二人の兄弟」のたとえに続いて、イエスは「もう一つのたとえを聞きなさい」と話し始める。たとえを聞いているのは、イエスが神殿から商人を追い出したことを不服に思う祭司長や長老たちである(二一・12・23・28)。「二人の兄弟」のたとえを語ったときと同様に(31節)、イエスは問いでたとえを終わらせる(40節)。答えは誰の目にも明らかであるから、祭司長や長老たちは、たとえが「自分たちのこと」を言っていると気づいても(45節)、答えざるをえない。イエスはこうして彼らに自分たちの罪深さを認めさせる。イエスはこのたとえによって、神への反抗を重ねた宗教的指導者たちを糾弾し、同時に、彼らが軽蔑する徴税人や娼婦のもとへイエスが行く理由を示す。イエスにとってこのたとえは、神の国を宣教するイエスの姿勢を弁明するものだったのだと思われる。

②しかし、イエスのたとえは教会で伝承されて行くうちに、新たに読み直される。そうすることに よって、イエスの時代とは異なる状況に生きる人々への励ましとして、イエスのたとえが受け取られてゆく。特に、34節「実りの時期が近づいたとき」はマタイの解釈の特色を示している。実り(収穫)の時期が「近づいた」だけで、収穫を受け取りに行くのは奇妙なことだが、マタイが「実りの時期が近づいた」と述べたのは、「エルサレムに近づいた」イエスを思い起こさせるためである(1節)。「近づいた実り」は、エルサレムでの十字架に近づいたイエスを指している。従って、34節の受け取るべき「彼の実り」(新共同訳は「収穫」とだけ訳している)とは、神がイエスによって実現しようとする救いを表す。「農夫たち」は、救いを実現しようとする神の思いに反抗し続ける者になる。

③イエスの死と復活を目の当たりに体験し、それを信じた人々がこのたとえを読むと、農夫たちに殺される「息子」はすぐにイエスを連想させる。こうして、このたとえは、イエスの死と復活を予告する詩編118編と結びつけられる。従って、このような解釈はイエス自身のものというより、教会による解釈だと思われる。

④さらに、マタイでは43節が加えられ、神に反抗するイスラエルの民から神の国は取り上げられ、異邦人に与えられるという主張とたとえが結びつけられる。こうして、異邦人宣教に取り組む教会は、イエスのたとえを新たに読み直すことによって、異邦人宣教が神の救いの計画に沿ったものであることを確信する。

⑤神の労苦によってたらされた救いに身を合わせて生きる

①イザヤ5章2節では、神が畑地を造成し、整備し、塔を建て、自分のぶどう畑を守り、実りを待ったことが歌われている。2節後半で「良いぶどう」と訳されている語は、普通の「ぶどう」を表し、価値評価は含まれていない。神は心を砕いてぶどう畑を守るために必要なことをすべて行い(4節)、ただ実りを待ただけである。それにも拘らず、実ったのは「酸っぱいぶどう」であった。こうして、神の労苦に応えない人々には裁きが下される。

②神は「ぶどう園」を作り、それを守り、イエスによる救いという「実り」をもたらす。イエスの死と復活によってたらされる救いは、神の労苦によるものである。神の労苦を拒絶する者には裁きがあるという警告と共に、神の労苦を忘れず、感謝して受ける者に「神の国」は与えられるという励ましが語られている。神からの救いに身を合わせて生きることが求められている。